

東北福祉大学通信
Mar 2022 No.96

TFU NEWSLETTER

Information

「TFU Vision 2025」
初年度の振り返りと今後の展望
大学院改革プロジェクト始動

Campus Topix

コロナ対策 大学拠点接種実施

Sports News

ゴルフ部 橋本選手
日本人2人目のアジア女王

2022年3月27日に挙行された
「令和3年度 学位記・卒業証書授与式」にて。
詳細は9ページ参照

TFU Vision 2025

初年度の振り返りと今後の展望

総務局長

池原 充洋



学校法人
梅檀学園は、
2025年
(令和7年)
に学園創立

150周年を迎えます。

ご承知のように、私立大学を取り巻く環境は年々厳しさを増しております。18歳人口は、2020年度は117万人、2030年度は103万人、2040年度は88万人と予想されており、現在でも大学全体の3割は定員割れとなっています。したがって2020年代は18歳人口が急減する中で、大学間の生き残り淘汰の時代が到来すると言われています。

こうした状況を踏まえ、厳しい大学間の競争を勝ち抜き、優秀な学生を確保し、将来にわたって安定した経営ができるように、令和3年度に「TFU Vision 2025」を策定し、①社会の変化に対応した学部学科の再編、②カリ

キュラムの見直し、③入試改革、④広報活動の充実、⑤大学ブランド力の向上、⑥大学院におけるリカレント教育の充実等に取り組むこととしました。

本学は、「行学一如」の建学の精神の下、地域社会に貢献する人材育成に努めてきました。これからも、持続可能な開発のための目標（SDGs）や地域共生社会の実現、情報通信技術（Society 5.0）・人工知能（AI）の発展、パンデミックの発生など様々な課題に対応できる人材を育成し、地域社会に貢献することを使命といたします。

II 「TFU Vision 2025」の概要

- ①ガバナンス改革（理事長及び学長のリーダーシップの下で透明性のある公正な大学運営に努め、学生、保護者、教職員、同窓生、関係団体等との信頼関係を構築）
- ②教育（革新的な教育内容や方法を開発する高等教育推進センターの創設）
- ③研究（感性福祉研究所を再編し、教職員の研究を支援する体制の整備）

④地域貢献（SDGs・地域共生社会実現のためのネットワークの構築）

⑤スポーツ・文化等による大学ブランドデザインの推進
⑥管理（安心安全で快適な学生生活を過ごすことができるキャンパスの再生）

III 令和3年度の取組状況と令和4年度以降の課題

(1) 令和3年末に立ち上がった「学部学科（教育課程）再編検討委員会」では、令和4年度から、①本学の強みに基づく独自教育、②新たな基盤教育の理念の構築、③資格を含めた専門課程教育の見直し、④通学課程と通信課程の連携等について検討した上で、将来的な学部・学科の再編を目指します。

(2) 大学院では、令和3年度にプロジェクトチームを立ち上げ、生涯キャリア形成を支援する取組を行っています。

①月例の「実学臨床研究セミナー」を開催し、卒業生などの学習意欲を喚起する

②社会人の資格取得等のためのスキルアップ講座や履修証明プログラムの実施

③対面、同時双方向、オンデマンド授業を有機的に活用して学習ニーズに対応した授業を提供する

④大学院のカリキュラムを見直し、令和5年度から新カリキュラムで開講する

⑤大学関連施設のリーダー級人材を本学大学院に受け入れるための環境づくり

(3) 令和4年度は、上記の検討結果を踏まえて、大学の将来構想を学内で議論し、それにふさわしい「キャンパスの整備構想」の検討に着手いたします。また、大学の教育研究活動がより一層充実したものとなるよう、最新の情報基盤システムの整備やICTを活用した学生の学習環境の充実に努めていきます。

新キャンパスの整備には、多大な費用が必要となります。昨年度及び本年度においては、新型コロナウイルス感染拡大などにより、厳しい経営となりましたが、理事長及び学長の下で、全学をあげて支出の抑制に取り組み、健全な経営に努めています。今後も、将来の施設設備の投資に備えて、計画的な経営戦略を立てて取り組んでいきます。

(4) 組織については、令和3年度当

初に、法人本部を創設し、法人本部と大学との役割分担を明確にしました。法人本部には、内部監査室、法務室、大学ブランド推進室を設置し、ガバナンスの充実と本学の存在価値の向上を目指すこととしました。

令和4年度には、「高等教育推進セクター」を創設し、高等教育の質保証に取り組むとともに、本学の特色である多職種連携教育を推進し、資格に裏付けられた高度な専門性を活かして社

大学院改革プロジェクト始動

卒業生等が生涯にわたり

キャリア形成できる仕組み作りに向けて

副学長・

大学院プロジェクト推進チーム委員長

大島 巖

― 大学院改革プロジェクトの背景



近年、地域社会や家族が変化し多様化する中で、複雑

化する支援ニーズに日ごろ向き合う対人援助の専門職は、絶えず新しい知識・技術を身に付け、新しく生じる社会課題に適切に対応する力量を身に付けること、高度専門職として成長することが求められています。これに対して本

会で活躍できるように、全学的な実習支援体制を整備する予定です。

(5) 令和4年度には、学園創立150周年に向けて、新しい東北福祉大学の姿をお見せすることができるよう、準備室を立ち上げ、具体的な検討作業を開始します。

関係者の皆様におかれましては、今後とも、学校法人梅檀学園東北福祉大学へのご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学大学院は、改めてその社会的ニーズに応えうる教育と教育支援体制を整える必要があります。

本学は「行学一如」を建学の精神として、これまで実学臨床教育など実践的な教育と実践研究の発展に力を入れて来ました。大学という「教育の場」が実践現場と常に往還することは本学にとって不可欠です。大学グループ関連法人をはじめとした実践現場や関連職能団体等とより良く十分に連携して、卒業生など福祉等関係専門職者が生涯にわたり学び直し、学び続けることが求められます。この特色ある本

学の取組みは、TFU Vision 2025の柱の1つにも位置づけられています。

II プロジェクトの3つの課題

大学院プロジェクトでは、「改善目標に向けた対応の方向性」を3課題設定し、3つのプロジェクトサブチームに分かれて取り組んでいます。

◇第1課題…意欲ある専門職への学習機会の提供と意欲喚起機会の設定
・月例研究セミナー(TFU実学臨床研究セミナー)等の開催

・意欲ある専門職を対象としたスキルアップ講座等の公開講座の開催
・生涯キャリア形成に関心ある学部学生に対する大学院進学説明会

◇第2課題…グループ関連法人等のリーダー養成への支援、技術協力
・グループ関連法人・実習協力施設(関連法人等)が行うリーダー養成業務(研修会・スーパージョン等)への大学からの支援

・関連法人等のリーダー級の人材が本学大学院で学ぶことへの大学としての配慮・優遇措置・インセンティブ設定、ほか

◇第3課題…大学院教育における授業内容の質向上・改善、科目履修の利便性向上
・通学大学院と通信大学院において科目の連携、共通科目の位置づけなど

一体的な大学院教育の提供、各大学院研究科各専攻科目の選択と集中

・通学大学院と通信大学院で認定社会福祉士認証授業科目の積極的導入
・意欲ある専門職の学習ニーズを満たす大学院科目の積極的導入と、力量ある大学院教員の採用・任用、など

III 令和3年度の取組と次年度以降の展望

昨年7月に、本学大学院委員会内にプロジェクト推進チームを設置、8月より上記3課題に対応した3チームで検討を進めています。検討成果は、「東北福祉大学大学院を基軸とした福祉等関係専門職者の生涯キャリア形成支援の方向性」(中間まとめ報告書…2021年9月22日)として取りまとめ、大学院委員会、教授会の承認を得ました。各チームの具体的な取組みは「工程表」に整理し、毎月チームリーダーの検討会で協議・検討して進展させています。第1課題の「TFU実学臨床研究セミナー」では、昨年9月の第1回セミナー開催以降、3月まで毎月計7回開催し410人を超える登録者を得ています。第2課題・第3課題への対応も順調に進んでおり、規程類の整備も行いながら、令和4年度には、大学院カリキュラムの体系的な改革などを進める予定にしています。

教育学科で中学校、高等学校英語教員養成開始

教育学部教育学科が、中学校、高等学校の英語教員養成を開始しました。教育学科中等教育専攻に英語科コースが新設され、2021年4月以降入学の学生から中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）が取得可能となりました。

社会のグローバル化にともない、日本の英語教育は大きな変化のただなかにあります。児童・生徒の国際的な視野と外国語によるコミュニケーション能力を育成することを目標とし、小学校では3・4年生で「外国語活動」、5・6年生でより体系的な教科の「外国語（英語）」が導入され、中学校、高等学校では授業を原則として英語で行うなどの、異文化理解を伴う実践的な4技能の向上を目指した英語教育が行われつつあります。

今回の英語教員養成の開始は、新しい英語教育に対応できる実践力のある教員の養成を目指しており、学生の選択肢を増やすとともに、グローバル化を推進する社会の要請に応えるものとなります。

英語教育課程カリキュラムに特別支援教育の科目を導入し、中学校、高等



「英語科教育法」での絵本を使った授業

学校の英語の免許状だけでなく、特別支援学校教諭一種免許状の取得も同時に可能とするなど、本学らしい「福祉のこころ」に根ざした実践力と専門性を兼ね備えた英語教員を養成します。また、異文化体験と英語力強化を目的とした海外研修（2年次末に予定）を必修としていることも、特色の1つとなります。

初年度は、後期から「異文化理解Ⅰ」「英語科教育法（概論）」などの専門科

目の受講が開始され、いずれも少数で学生の主体性と協働性を育むアクティブラーニングを取り入れた授業となりました。

2年次からは「リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）」で、英語学や英語文学、英語教育など、それぞれの興味・関心に沿った研究を行いながら、英語教員となるための能力・資質を向上させ、2年次後期は、中学校の現職の先生方の協力の下、3年次の教育実習に向けた準備を行います。3年次には、専門科目に加えて、特別支援教育に関する学びも得て、4年次で教員採用試験を受験する養成方針となっています。

保健看護学科助産師課程 1期生が国家試験全員合格

2018年から健康科学部保健看護学科に開設された助産師教育課程が、2021年度で完成年度を迎えました。課程は、複雑で多様な価値観や状況に対応できる助産師、特に地域に貢献できる人材としての助産師を育てるため、開設されたものです。

「1期生」は5人。2年次から助産学の専門科目を受講し、3年次にはコロナ禍による影響も受けながらも、学びを止めることなく着実に、地道に目

標に向けて進み、選抜試験を通過した学生たちでした。

4年生となり課程に進んだ学生たちは今年度、年間を通して助産学に関する講義や演習、臨地実習を受講。2021年6月から開始された助産学実習では、12月10日をもって、学生全員が1人10例の分娩直接介助を経験し、無事終了することができました。1期生たちは、2022年2月に第105回助産師国家試験を受験。3月25日に発表が行われ、5人全員が見事合格を果たしました。



助産師教育課程での臨地実習に励む学生たち

令和3年度新任教員紹介

大島 巖教授



担当科目・大学院社会福祉演習Ⅲ、精神保健

福祉論研究、(通信教育部) 大学院精神保健福祉演習、精神保健福祉論研究、社会福祉学特別研究Ⅱ。

北海道出身。東京大学医学部保健学科卒業、東京大学大学院医学系研究科保健学専門課程博士課程修了、博士(保健学)。国立精神・神経センター精神保健研究所室長、東京都立大学社会福祉学科助教授、東京大学大学院医学系研究科助教授、日本社会事業大学教授・学長を経て、令和3年4月から本学副学長・教授。



村上 由則教授

担当科目・重複障害者教育総論、病弱者教育

論、病弱者の心理・生理・病理

岩手県出身。岩手大学教育学部養護教育学科卒業、東北大学大学院教育学研究科博士前期課程修了、博士(教育学)。岩手県立花巻養護学校教諭・岩手県立松園養護学校教諭、宮城教育大学教育学部助教授・同学部教授、同大学院教育学研究科教授を経て、令和3

年4月から本学教授。

三城 大介教授



担当科目・リエゾンゼミⅠ(基礎演習)・Ⅱ(専門基礎演習)・Ⅲ、精神保健福祉の原理Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助技術総論

Ⅰ、精神保健福祉演習、精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ

大分県出身。日本福祉大学社会福祉学部第一部社会福祉学科、九州保健福祉大学大学院社会福祉学研究所後期博士課程満期退学。別府大学文学部人間関係学科准教授、九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科教授を経て、令和3年4月から本学教授。

久保田 佳克教授



担当科目・リエゾンゼミⅠ(基礎演習)、英語Ⅰ(コミュニケーションを含む)・Ⅱ・Ⅲ、英語科概論、英語科教育法(概論)

福島県出身。東北大学文学部哲学科卒業、宮城教育大学大学院教科教育専

攻修士課程修了、東北大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得後退学。山形女子短期大学英文科講師、仙台電

波工業高等専門学校准教授、仙台高等専門学校広瀬キャンパス教授等を経て、令和3年4月から本学教授。

品田 誠司准教授



担当科目・リエゾンゼミⅠ(基礎演習)・Ⅱ(専門基礎演習)、リーダーシップ論、地域資源と起業、経営戦略論、マーケティング論、産業発展論、6次産業化実践

論、イノベーション論Ⅱ、地域活性化マネジメント論(入門編)、マネジメント基礎論、プロジェクト実践活動ⅡB・ⅢB

北海道出身。弘前大学人文学部経済学科卒業、東北大学経済学研究科博士課程前期修了、同博士課程後期修了、博士(経営学)。平成2年4月法務省、同年4月仙台市役所、秘書係長、産業振興課長、政策企画課長、総務局参事等を経て、総務局次長(政策広報担当)。令和3年4月から本学准教授。

杉浦 徹准教授



担当科目・リエゾンゼミⅠ(基礎演習)・Ⅲ(専門演習Ⅰ)・Ⅳ(専門演習Ⅱ)、障害児

の学習支援、自閉症者教育総論、特別支援教育総論、特別支援教育の理解

B、発達障害者教育総論、特別支援教育実習の事前指導、特別支援教育実習の事前事後指導、特別支援教育実習、知的障害者教育特論、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害児教育実践研究

京都府出身。信州大学教育学部養護学校教員養成課程特殊教育学科卒業、信州大学大学院教育学研究科修了。長野県公立学校教員、長野大学社会福祉学部助教、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所情報・支援部主任研究員、同総括研究員を経て、令和3年4月から本学准教授。

芳賀 恭司准教授



担当科目・リエゾンゼミⅠ(基礎演習)・Ⅱ(専門基礎演習)、社会福祉援助技術論Ⅱ、社会福祉援助技術実習指導Ⅰ・Ⅱ、社会福祉援助技術実習、社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

岩手県出身。東北福祉大学社会福祉学科卒業、東北福祉大学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程修了。鶴ヶ谷地域包括支援センター所長、特別養護老人ホーム暁星園園長、東日本国際大学健康福祉学部准教授を経て、

令和3年4月から本学准教授。

て、令和3年4月から本学准教授。



佐藤 准教授

担当科目・リエゾンゼ
ミイ（基礎演習）、英語Ⅰ（コミュニケーションを含む）。

Ⅱ・Ⅲ、英語文学Ⅰ

山形県出身。山形大学人文学部文学科卒業、山形大学人文学部専攻科修了、東北大学大学院文学研究科博士課程前期2年の課程修了、同後期3年の課程単位取得後退学。三島学園女子短期大学（現・東北生活文化大学短期大学部）講師、同准教授を経て、令和3年4月から本学准教授。



光永 憲香准教授

担当科目・リエゾンゼ
ミイ（基礎演習）・Ⅲ（統

合演習Ⅰ）・Ⅳ（統合演習Ⅱ）、コミュニケーション論、精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国際看護論、ヘルスプロモーションと個人技術の開発、精神看護学実習、地域包括ケア実習、看護技術総合演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ（看護学研究）

鹿児島県出身。宮崎県立看護大学卒業、東北大学大学院医学系研究科博士後期課程修了、博士（看護学）。東北大学病院で看護師として勤務。平成18

年4月より東北大学大学院医学系研究科精神看護学分野助手・助教を経て、令和3年4月から本学准教授。



重宗 弥生准教授

担当科目・リエゾンゼ
ミイ（基礎演習）・Ⅱ（専

門基礎演習、心理学基礎演習）・Ⅲ（専門演習Ⅰ、心理学演習Ⅰ）、知覚・認知心理学、神経・生理心理学、心理学実験、心理学実践研究実習、心理学研究法

山口県出身。九州大学理学部生物学科卒業、東北大学医学系研究科博士後期課程修了、博士（障害科学）。東北大学加齢医学研究所研究員、京都大学人間・環境学研究科研究員、京都大学こころの未来研究センター研究員、Otto-von-Guericke University Magdeburg, Institute of Cognitive Neurology and Dementia Research, Research Fellow、中央大学文学部研究員、中央大学研究開発機構助教を経て、令和3年4月から本学准教授。



水本 匡起講師

担当科目・リエゾンゼ
ミイ（基礎演習）・Ⅱ（専

門基礎演習）、科学の成果と未来（地

理）、地理学の基礎、実践的防災学、災害概論、観光地理Ⅱ、災害伝承学・次世代塾講座、特講（震災伝承学・次世代塾講座）、災害復興支援論、地域減災論

東京都出身。法政大学文学部地理学科卒業、東北大学大学院理学研究科地学専攻博士課程修了、博士（理学）。公益財団法人地震予知総合研究振興会地震調査研究センター研究員、東北大学文学部歴史学科・教養学部地域構想学科非常勤講師、中央学院大学法学部非常勤講師、東洋大学社会学部国際社会学科非常勤講師等を経て、令和3年4月から本学講師。

阿部一彦社会福祉学 科長、最終講義

社会福祉学科長・阿部一彦教授の最終講義が2022年3月3日、国見キャンパス・マルチメディア教室で行われました。同教授が実行委員長を務

め、2021年9月から月例開催の「実学臨床研究セミナー」の第7回セミナーとして開催。会場では教職員ら約40名、オンラインで卒業生や学内外関係者ら約300名が聴講しました。

阿部教授は1998年に本学に着任。社会福祉・障害福祉分野で研究



最終講義を終え、花束を受け取る阿部教授（左）

教育に携わり、実学臨床教育では責任者として運営に尽力されました。また、学外では多くの障害者団体等で要職を務め、障害福祉施策の策定など地域、行政と一体となった取り組みに貢献されています。

最終講義のテーマは「障害者の社会参加と地域生活」。障害者スポーツ大会開催や東日本大震災での経験など、これまでの活動を振り返りながら「障害者にとって不便なことを解消すると、誰にとっても暮らしやすい社会になる」と訴えました。

最後に、花束と記念品が贈呈され、卒業生、関係者から謝辞が述べられました。阿部教授は「これまで皆さんと多くの活動に取り組んでこられたのは幸せなこと。これからも継続していくのでよろしくお願ひします」と今後の活動への意欲を語り、参加者から大きな拍手が送られました。

モビリティポート『E-COM Station』 仙台駅東口キャンパス前に誕生

本学が参画する「仙台駅東まちづくり協議会」は2021年11月26日、仙台駅東口キャンパス前（宮城野通り）に、モビリティ共同ポート「E-COM Station」を開設しました。

この取り組みは、国土交通省が公募した「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験（社会実験）」に仙台市が採択されたことを受けてのもの。コニカミノルタ㈱、中央大学秋山研究室とともに、本学からは総合マネジメント学部が実証実験に加わりました。モビリティ共同ポート「E-COM Station」は、「賑わい・モビリティ・物流」の複数種類の交通モードが同時に混在したときの走行性や利便性向上支援策を検証していくことが



多くの関係者、報道陣が見つめる中でAI自動運転車椅子のイメージ走行

テーマの1つ。仙台駅東口から楽天生命パーク宮城等へつながる宮城野通におい

て、広幅員の道路空間をフル活用しています。

仙台駅東口キャンパス前の歩道に設置された共同ポートは、休憩用のベンチとテーブルがあり、イベントやキッチンカーの出店内容など地域に密着した情報を発信するデジタルサイネージも利用可能。開設当日には、AI自動運転車椅子の路上走行実験で関わりを持つ産業福祉マネジメント学科の学生（仙台駅東まちづくり協議会都市創造部会チーム）らが、イメージ走行を行いました。

実証実験は2022年も継続され、今後は学習データと学習のチューニングや心理学実験（電動車椅子搭乗者の視線分析）などが予定されています。

なお、「E-COM Station」の名称は、産業福祉マネジメント学科・松坂武治さん（2年）の提案によるもので、E（東口：East）+ CO（共同：Community）+ M（移動手段：Mobility）情報媒体：Media、回遊：Migration）+ Station（拠点）を意味しています。

地域人材育成PFに参画

東北福祉大学は2021年5月18日、宮城県及び仙台市、県内大学などと「みやぎ・せんだい地域人材育成協働事業プラットフォームに関する協定」を締結しました。

協定は前年12月に14機関で締結されたもので、今回、本学と東北文化学園大学、一般社団法人宮城県情報サービス産業協会が新規参画。目的は①教育カリキュラム運営、②キャリア支援、③地元定着推進など宮城県内における産官学全体の興隆に寄与することで、大学等の卒業生の県内就職率向上や、新規事業促進及び新規起業に伴う雇用創出に資する事業等を行っていきます。

また、連携協働事項として①県内学生の人材定着支援に関する施策の立案及び実施②地域協働教育科目の企画、運営及び強化③新たな課題の発見及び解決に関すること、が協定書に示されました。

白石高校と包括連携協定

宮城県白石高等学校と本学は2022年2月17日、「包括連携協力に関する協定」を締結しました。高等学校との協定締結は6校目。

協定の目的は「学術研究、教育、文

化等の分野で相互に協力し、学術研究及び学校教育の振興並びに地域社会の発展と人材育成に寄与すること」で、内容は①大学及び高等学校における教育研究、調査研究に関すること ②学生及び生徒の学習支援に関すること ③生徒の探究活動・学習の充実化を図るための高大接続の研究に関すること ④地域社会の発展に資する研究に関すること ⑤入試情報の提供や入学者の選抜方法等の高大接続の研究に関すること ⑥その他協定の目的に照らして必要と認められる事項に関すること。



佐藤浩校長（左）と千葉学長と協定を結びグータッチする

また、協定に基づく覚書は、産業福祉マネジメント学科の教員が持つアカデミックスキルを用いて、部分履修やゼミ形式による「総合的な探究の時間」での学びの環境を互いに作り上げていくことが盛り込まれました。その過程を通して学問やSDGsへの理解を深めるとともに進路意識を高め、生徒の探究活動・学習の充実化を図る研究を双方で行っていきます。

コロナ対策、大学拠点接種等を実施

2020年から猛威をふるう新型コロナウイルスに対し、本学は2021年もさまざまな対策を講じ、学生・教職員等の安全と安心を確保することに努めました。

6月、ワクチン接種のスピード化が求められる中、全国から職域接種に申請した企業・大学等が多く、国でワクチン供給可能性が上限に達しました。本学は職域接種の申請を済ませていましたが、希望通りの実施時期となるかは未定であったため、せんだんホスピタルの協力を得て、7月から8月にかけて2回の先行接種実施に至りました。医療従事者に準ずる健康科学部の学生と教員を対象とし、仙台市医師会で確保されたファイザーワクチンを約640人に接種。また、教職員及び同居家族約150人にも接種を行いました。

9月3日から10月19日にかけては、大学拠点接種（職域接種）を実施。学生、教職員、本学校地に勤務する委託業者、近隣の住民および近隣企業や教育関係者など約1,700人の方々に2回の接種を行いました。

また、保健所支援や医療従事者の派

遣も行いました。3月、宮城県と仙台市に緊急事態宣言が発令。宮城県知事の要請を受け本学からも人員を派遣、仙台市保健所青葉支所等で新型コロナウイルス感染症対応の支援にあたりました。また、7月には集団接種に関し仙台市医師会から医師・看護師の派遣要請があり、延べ7人の医師・看護師を派遣しました。



せんだんホスピタルでの先行接種の様子

来場型OC 1年10カ月ぶり実施

2021年度オープンキャンパスの第1回が6月20日、国見キャンパス、



6月20日、オープンキャンパスクラブ学生によるキャンパスツアーの様子

国見ヶ丘第1キャンパスで行われました。前年度は昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで開催、2019年8月18日以来約1年10カ月ぶりとなった来場型となり、約550人の生徒、保護者の方々が来場しました。

来場型のオープンキャンパスは、これまで自由来場としていましたが、コロナ対策として事前申し込み制とし、7月2回、8月、9月と今年度計5回開催。約3,900人の方々にお越しいただきました。

また、10月の第6回オープンキャンパスも当初は大学祭と合同企画を予定していましたが、新型コロナウイルスの罹患者の増加により、オンライン会議ツールのGoogleMeetを用いた個別相談として行いました。

2021年10月14日、株式会社ネクストベース、東日本電信電話株式会社（NTT東日本）宮城事業部、仙台大学との「スポーツ分野におけるICT活用強化並びに新たなデータ解析ビジネスモデル創出に向けた連携に関する協定」を締結しました。

スポーツ科学の活用により、学生のパフォーマンス向上やケガの防止などを目指す取り組みで、将来的にはオンラインを活用してデータアナリストが現地に行かなくても測定が可能かどうかについても検証。硬式野球部がスポーツ科学に関する実証実験に同年11月から翌年3月まで参画しました。



最終回となった2022年3月、打撃などのデータ測定が行われた

可視化された結果が逐一選手たちにフィードバックされまし

令和3年度学位記・卒業証書授与式

「令和3年度学位記・卒業証書授与式」が2022年3月27日に挙行されました。当初は3月17、18日に行う予定でしたが、16日深夜に起きた福島沖地震のため延期。式典当日は午前、午後の2回、授与式は学部代表者のみに参加し、その他の修了生・卒業生は大学院・各学部学科ごとの会場で様子を見守りました。



令和3年度学位記・卒業証書授与式で、千葉学長から菅長賞を授かる社会福祉学科・須藤朋美さん

対象は大学院総合福祉学研究所修士課程15人、大学院総合福祉学研究所修士課程通信制16人、大学院教育学研究所修士課程6人、総合福祉学部社会福祉学科438人、総合福祉学部福祉心理学129人、総合福祉学部福祉行政学科110人、総合福祉学部社会福祉学通信制176人、総合福祉学部福祉心理学通信制33人、総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科108人、総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科

109人、総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科112人、教育学部教育学科初等教育専攻210人、健康科学部保健看護学科88人、健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻41人、健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻42人、健康科学部医療経営管理学科73人の計1、662人でした。

また、「令和2年度学位記・卒業証書授与式」は2021年3月18、19日に挙行。大学院総合福祉学研究所修士課程7人、大学院総合福祉学研究所修士課程通信制14人、大学院教育学研究所修士課程5人、総合福祉学部社会福祉学科435人、総合福祉学部福祉心理学137人、総合福祉学部福祉行政学科108人、総合福祉学部社会福祉学通信制165人、総合福祉学部福祉心理学通信制38人、総合マネジメント学部産業福祉マネジメント学科116人、総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科112人、教育学部教育学科初等教育専攻210人、健康科学部保健看護学科77人、健康科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻44人、健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻38人、健康

科学部医療経営管理学科76人の計1、624人が対象でした。

なお、令和3年度入学式は1、344人が対象となっていました。コロナ禍により2年連続で延期となりました。

「TFU教育フォーラム」3年ぶり全面開催

「TFU教育フォーラム2021」が2021年12月4日、オンラインで開催されました。このフォーラムは、2012年度から保育・教育の実践的課題の追究、研究の進展を目的に始まりました。しかしながら、2019年度は台風接近により一部中止、2020年度はコロナ禍により全面中止を余儀なくされました。

これを踏まえて、2021年度は、初めてオンラインで開催。テーマを「ポストコロナへの志向―すべての子どもが確かな学びを目指して―」とし、幼保・初等（2分科会）・中等・特別支援の5つの分科会が設定されました。当日は、開会行事をYouTube LIVE、各分科会は主にGoogle Meetを活用して行い、卒業生・在学生・一般等合わせて655名の参加がありました。

また、学生実行委員記録係及び広報担当教員の編纂により「記録集」が完成しました。幼保・初等教育（小学校

2つ）・中等教育（中高）・特別支援教育の5つの分科会が行った取り組みを「分科会記録」・「講話要旨及び発表要旨」・「アンケート結果」の3つで総括しました。また2012年度から継続されてきた「TFU教育フォーラムのあゆみ」などもまとめられています。「TFU教育フォーラム2021」記録集（PDF）は、大学ホームページで閲覧可能となっています。

東口「ファーマーズマーケット」再開

ファーマーズ・マーケット（多芸多菜市）が2021年12月5日、仙台駅東口キャンパスで開催されました。地域と協働で活動できる貴重な機会、交流を深める場として2019年7月からこのイベントは開始されましたが、2020年度は新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされていました。再開となった今年度の催しでは、キャンパスの屋外を使用して、野菜物販ブース等を出店しました。ブース運営の手伝い等で本学学生3名がボランティアとして参加。野菜販売以外に竹細工の販売も行われ、12月の寒い中でしたが、多くの方に足を運んでもらいました。また2022年3月6日には2回目を開催しました。

「未来へ思いを紡ぐ大学生プロジェクト」 キックオフに11大学が参加

「3・11」の東日本大震災から10年が過ぎた2021年3月12日、学生達が主体となり、未来を担った新たなプラットフォームの場「東日本大震災から10年〜未来へ思いを紡ぐ大学生プロジェクト」のキックオフミーティングを開催しました。

東日本大震災より学生ボランティア団体や大学の被災地支援プログラムが活発化し、個別の活動が「点」として取り組まれています。10年を機に、「点」が結び付くことで学生達が主体となり、未来を担った新たなプラットフォームの場となるプロジェクトをTKK3大学間（東北福祉大学・工学院大学・神戸学院大学）やプロジェクトに賛同いただいた大学と共同で実



キックオフミーティングにオンラインで参加した学生たち

施。当日はオンラインで開催、11大学の学生・教職員あわせて82名が参加しました。

「若者への期待」をテーマに、講演を総務省や復興庁、卒業生からいただいた後、東松島市あおい地区の小野会長より震災当時の話をしていただき、学びを深めました。

この後、オンライン学生交流を行い、各学生から普段の活動の発表やこのプロジェクトで実施したい事、東北への思い等を共有しました。

参加した武山友香さん（社福3年）は「私は10年前に津波で被災したので、東日本大震災は忘れられません。他の地域はどのくらい当時の記憶が風化し、どう思っているのかイマイチ感じとることができていませんでしたが、震災や東北のことについて考えてくださっている方が沢山いることがわかり非常に嬉しかったです。学生という立場を最大限に活用し、大学生ならではの取り組みを行い、震災を知らない世代にも伝えていけるプロジェクトにしたい」と語りました。

※学年は開催時点

東日本大震災10年慰霊 供養 オンライン配信

2021年3月11日、国見キャンパス法堂で東日本大震災10年供養を営みました。節目の供養とあり、一般社団法人仙台仏教会が主催、本学が共催として約2時間、オンラインで配信。協賛の公益財団法人全日本仏教会からのメッセージ動画配信に始まり、大地震の起きた14時46分に黙祷を捧げました。また、千葉公慈学長が講師を務めた。「東日本大震災10年に思いを馳せ、今を生きる」を演題として講演を行いました。コロナ禍の中、できうる範囲で震災物故者に対して慰霊の誠心をささげる法要となりました。

産福・太田さんら、 第17回CVG東北 奨励賞

産業福祉マネジメント学科・野呂拓生准教授ゼミの3年生、太田涼さん（代表）、山口湧大さん、三浦颯平さんによるグループが、学生起業家の登竜門とされる第17回キャンパスベンチャーグランプリ東北（CVG東北）にて奨励賞を受賞しました。

キャンパスベンチャーグランプリ東北（CVG東北）は、CVG東北実行委員会の主催、東北地区4産業人クラ



受賞メンバーの三浦さん（左）と太田さん

ブ・日刊工業新聞社の共催。今回は東北地区の大学などから計30プランの応募があり、書類審査、最終審査会でのプレゼンテーションを経ての受賞になりました。ゼミとしては第15回に次ぐ受賞になります。

受賞プランは「旅先で楽に服を着よう Storage Free」旅先でファッションを手軽に」。服を大量に持ち歩かなくても旅先に合ったファッションを楽しめるといふ、定額制の旅先服装レンタルサービスになります。ウィズコロナ・アフターコロナを見据えながら、ファッション業界、旅行業界の現状をリサーチし、アイデアを形にしていきました。

2022年2月に予定されていた表彰式は感染拡大に伴って直前で中止になりましたが、個別に賞状・副賞が授与されました。

令和2、3年度学内懸賞論文 櫻井さん2年連続最優秀賞

令和3年度学内懸賞論文の最優秀賞、優秀賞ほかの受賞者が発表され、

2022年2月28日、国見キャンパスで表彰式が行われました。テーマはA部門が「コロナから得た教訓」、B部門が「今こそ東日本大震災を振り返る」の2種類で、A部門に49編、B部門に24編の作品が寄せられました。

慎重な審査の結果、A部門とB部門から最優秀賞（奨学金10万円）と優秀賞（同5万円）、佳作が選ばれました。

表彰式後、千葉公慈学長からは「良い論文は書いていて楽しいはず。発想・材料・方法の三つの要素が相混じって素晴らしい論文になっていました」と述べました。

また昨年度のA部門で最優秀賞を受賞し、今回B部門の最優秀賞の櫻井秀真さんは「チャンスがあれば、もっと考えを深め、たくさん足を運んでチャレンジしたい」と話しました。

☆最優秀賞 【A部門】時田歩菜（福行3年）「コロナ後の時代の創造に向けて」コロナから得た教訓をどう生かすか」【B部門】櫻井秀真（社福3年）「今こそ東日本大震災を振り返る」

☆優秀賞 【A部門】陳凌雲（大学院社会福祉学専攻2年）【B部門】伊藤

拓海（福行3年）

☆佳作 【A部門】内館駿（福行2年）

白田一暉（福行2年）【B部門】遠藤凌（福行2年）

なお、令和2年度分は以下の通り。

【テーマ】A部門「学生の視点から見たオンライン授業」（応募36編）、B部門「オンラインコミュニケーションの可能性と限界」（応募30編）※学年は当時

☆最優秀賞 【A部門】櫻井秀真（社福2年）「学生の視点から見たオンライン授業」【B部門】諏訪加寿美（福行4年）「インターネット時代に生きる私たちと社会」

☆優秀賞 【A部門】相澤伶映奈（社福3年）【B部門】藤原早希（産福3年）

☆佳作 【A部門】印海兵（社福2年）【B部門】時田歩菜（福行2年）



B部門最優秀賞の櫻井さん（左）は千葉学長から賞状を授かる

資格取得報奨制度を開始

キャリアセンターでは2021年4月より、学部通学生を対象に、将来仕事に就いたとき、または今後の就職活動に役立つようにすることを目的として、資格取得報奨制度を導入しました。この制度は、これからの社会人として必要不可欠な情報処理・情報通信・IT系、語学（英語）・教育・旅行サービス系、金融・保険・不動産系に関連した資格取得・基準点達成に対して、学生個人の努力を報奨金として給付するもの。

2021年度は17件が該当、資格取得を目指す学生たちにとって、励みとなっているようでした。

社福・佐藤さん 提言募集事業で最優秀賞

山形県社会福祉協議会の「令和3年度山形県における地域共生社会の実現に向けた提言募集事業」の選考結果が2022年1月28日に発表され、社会福祉学科3年の佐藤勇樹さんが最優秀賞を受賞しました。

今回募集されたテーマは「山形県における地域の生活課題を解決するアイデア」で、佐藤さんは『きてけるキャンプ』で障害者差別の解消」という提言をまとめました。佐藤さんは「これから『誰もが暮らしやすい地域共生社会の実現』について考え、貢献して

いきたい」受賞の喜びを語りました。



賞状を手にする佐藤さん

サイバー防犯 ボランティアに感謝状

情報福祉マネジメント学科学生、同学科教員のゼミ生ら92人が委嘱されている「サイバー防犯ボランティア」の感謝状贈呈式が2021年12月16日、仙台市青葉区の宮城県警察本部で行われました。

サイバー防犯ボランティアは、インターネット上に氾濫する違法・有害情報を発見し警察に通報する活動を行っています。本学は、社会貢献活動の一環として4年前より参加しており、今年度は昨年の59人を上回る92人の学生が活動しました。

感謝状は、今年度の活動期間中に特に貢献した個人と団体に贈られるもので、川村広樹さん、橋本巧輝さん（ともに情報福祉マネジメント学科3年）と佐々木瞳さん（産業福祉マネジメント学科4年）の3人が個人表彰、本学は団体表彰を受けました。

吹奏楽部が全国大会で銀賞受賞

第69回全日本吹奏楽コンクールの大学の部が10月30日、香川県高松市のレクザムホールで行われました。昨年度はコロナ禍により中止。今大会が2018年以来3年ぶり12度目の出場となった吹奏楽部は、荒井富雄氏の指揮のもと、課題曲「トイズ・パレード（平山雄一作曲）」、自由曲「巨人の肩にのって（ピーター・グラハム作曲）」を演奏しました。

昨年からの練習がままならず、この半年間も緊急事態宣言等の影響で活動を制限されるなど、合奏ができた日も少なく不安が募る中ではありましたが、結果は金賞の3団体に次ぐ、銀賞を受賞。大会に臨んだ55人の力を合わせ、今できる最高の演奏を全国舞台上で披露しました。



3年ぶりの全国で成果を披露した吹奏楽部の部員たち

混声合唱団 楽天戦で “国歌斉唱”

混声合唱団が2021年10月15日、楽天イーグルス対西武ライオンズとの一戦で“国歌斉唱”を行いました。コロナ対策により動画での出演となりましたが、演奏終了と共に大きな拍手を頂きました。

例年であれば大学関連施設や地域高齢者施設等において歌の披露を行い、利用者とのコミュニケーションや地域住民との交流を図っていました。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から演奏の場がゼロに。所属する学生のモチベーションも下がっていた矢先に、球団から依頼が飛び込みました。国歌斉唱は、直接球場にて生演奏を行うのではなく、事前収録したものを当日流してもらうという内容でした。

本番1カ月前の9月16日、30名の団員中9名の少数精鋭が集まり収録を決行。国家「君が代」は、全員での合唱、特にユニゾン（すべての音が一緒）の曲は非常に難しく、何度も撮り直しを行い、やっとの思いで完成にこぎつけました。

当日、団員と佐藤泰伸部長の6人が楽天生命パークに足を運び、演奏と試

合観戦。試合開始前に「国歌斉唱 東北福祉大学混声合唱団」と告げられると大きな拍手がスタジアム内に響き、君が代の演奏が始まるとスタジアム内は合唱団の歌声だけが響いていました。佐藤部長は「コロナ禍における合唱活動は非常に厳しく制限されていますが、新たな活動の一端を垣間見る行事となった」と胸を熱くしていました。



撮影された動画より



スタジアムのスクリーンに映し出された混声合唱団

「ふあみりあ」に 仙台市社協から感謝状

学生ボランティアサークル『ふあみりあ』が2021年9月1日、第56回仙台市社会福祉大会で仙台市社会福祉協議会長から感謝状を贈呈されました。

学生サークル「ふあみりあ」は2008（平成20）年度に設立。「子ども育み支援」という目的で活動し、子どもたちへ学生それぞれが向き合い、子どもが健全に育つ環境の支援を行っています。



2021年10月の定例会で感謝状が手渡された

参加するイベントを年に数回行うとともに、地域の児童館におけるボランティア活動や町内会行事でのレクリエーション等も行い、地域活動にも積極的に参加しています。また、本学の他サークルや他大学と連携し、東日本大震災以降は定期的に仮設住宅や被災地に通い、子ども支援活動などネットワークを生かし、資源・情報・広報・ノウハウの共有を図り活発に活動しています。

この度の表彰はそれらの活動が評価されたもの。ふあみりあ学生代表の北原明日翔さん（社福3年）は「今回新型コロナウイルスの影響を受けて活動が低迷している中、これまでの活動が功労賞という形となって報われ、サークルの活気を取り戻す出来事となったと実感しています。これからも多くの活動を行なっていくと思いますが、これを機に『相手のことを思い、活動するためにはどのようなしたら良いのか』を常に考えながら、サークル員の意識や技術を向上させながら取り組んでいこうと思っています」と語りました。

Team ZEROに 仙台北警察署から感謝状

警察業務運営の協力や精力的な活動に対しての感謝状贈呈式が2022

年1月18日、仙台市青葉区の仙台北警察署で行われ、本学学生サークル「地域安全安心ボランティアTeam ZERO」に感謝状が贈られました。

感謝状は、警察業務運営の取り組みに貢献した23団体と個人24名に贈られ、ボランティア団体としては「地域安全安心ボランティアTeam ZERO」が唯一の団体でした。

感謝状を授かった代表の若生晋弥（福行4年）さんは「今回の表彰で満足することなく、地域に貢献できるようにこれからも頑張ります」と意気込みを語りました。

「Team ZERO」は主な活動として、登校時に国見小学校付近での挨拶や呼びかけをする地域スクラム安全安心作戦や大学付近のナイトパトロールなどに取り組んでいます。

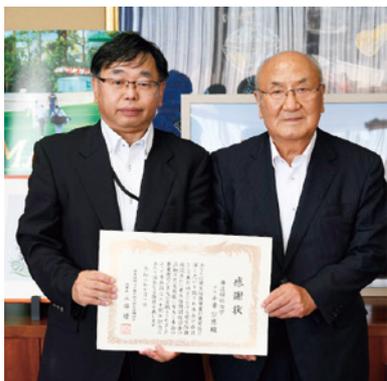


感謝状を受け取る Team ZERO 代表の若生さん(右)

東北地方更生保護協会より感謝状

本学および学生ボランティア団体「青葉区BBS会」が2021年7月20日、更生保護法人東北地方更生保護協会より感謝状を授与されました。感謝状は、長年の更生保護事業への支援に対するもの。同協会から三井精一理事長が来学、池原充洋総務局長に感謝状が手渡されました。

学生ボランティアサークル「青葉区BBS会」は同協会に加入しており、少年院や自立支援施設で子どもたちと関わるボランティアなど、数多くの活動を行っています。



三井理事長（右）から感謝状を受け取った池原局長

EVENTS NEWS

「志村けんの大爆笑展」が大好評

TFUギャラリー Mini Mori

2021年度も新型コロナウイルスの影響のため、さまざまな制限を余儀なくされましたが、東京オリンピックが開幕した7月末に関連イベントとして「宮城県都市ボランティア 東日本大震災語り部」を開催、11月からは「第2回杜のみやこ工芸展」「志村けんの大爆笑展」「第14回河北小中学生書道展」「第68回河北書道展」を開催しました。

中でも23日間で1万以上の方々にお越しいただいた「志村けんの大爆笑展」は、志村けんさんの笑いのルーツや軌跡、こだわりのつまったコント等を体験でき、特に「バカ殿様」のリアル等身大フィギュアは写真スポットとして、人気を集めました。



公式HPリニューアルを予定

芹沢銈介美術工芸館



2021年は一般に向けての施設開放はできませんでしたが、5月よりゼミ単位や科目でのグループ見学など、授業の受入を行いました。展示の見どころの説明に加えて、ワー

クシートを配布し、展示作品への理解につなげる工夫をしました。また、2020年7月から開始した公式ホームページでの「Web展示室」には、2021年は工芸館職員が編集した5件の動画を配信しました。また、12月から新たに『美術工芸館Newsletter』を発行し、収蔵品に関することや館の仕事などを紹介。こちらも公式ホームページで閲覧可能としました。

2022年度には公式ホームページのリニューアルを予定。コロナ禍が続く中、来場型だけでなく、当館の作品や芸術全体に関心を持っていただく取り組みを続けて行きます。

「島秀雄記念優秀著作賞」を受賞

鉄道交流ステーション

「鉄道友の会 島秀雄記念優秀著作賞」の贈呈式が2021年3月26日、国見キャンパスで行われ、鉄道友の会から久保敏副会長、二宮敬彦山形支部長、小野田滋理事、本学からは寺下明副学長、当館の星山幸男運営委員長、鈴木佳子学芸員が出席しました。

この贈呈式は、当館発行鉄道交流ステーションブックレット「むかし、秋保まで鉄道が走ってた。」ほか一連の企画が評価され、2020年特別部門の受賞をうけてのもの。久保副会長からは「貴重な記録で、歴史を残すという意味で非常に重要なこと。これを機会にみなさんが目を向けて、訪問していただくようなれば大変うれしい」と賛辞をいただきました。



2区金澤選手が本学初の区間賞 富士山女子駅伝

2021全日本大学女子選抜駅伝競走(通称・富士山女駅伝、7区間43.4km)が12月30日、静岡県富士宮市などで行われ、陸上競技部の女子駅伝チームは2時間29分36秒で過去最高の12位となりました。また、2区(6.8km)を走った金澤選手(3年)が、21分21秒で本学では全国大会初となる区間賞を獲得しました。

〈総合成績〉

1位 名城大学 2:22:24
2位 大東文化大学 2:25:22



区間賞の盾を手に笑顔



本学初の全国大会区間賞と快走した金澤選手

3位 日本体育大学 2:25:59
12位 東北福祉大学 2:29:36

〈本学選手の区間成績〉

※タイムの後は区間順位

1区(4.1km)小松 莉菜(医経3年) 13:21(10)
2区(6.8km)金澤 佳子(社福3年) 21:21(1)
3区(3.3km)八畝 奈央(社福4年) 11:01(19)
4区(4.4km)武内わかな(社福3年) 15:31(11)
5区(10.5km)田中 杏梨(社福4年) 35:43(12)
6区(6.0km)植田 真央(社福4年) 20:40(13)
7区(8.3km)小高 夏綺(看護4年) 31:59(12)

過去最高9位の躍進！ 杜の都駅伝

第39回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(通称・杜の都駅伝、6区間38.1km)が10月31日、仙台市内で行われ、15年連続19度目出場の本学女子駅伝チームは2時間8分46秒で過去最高の9位となりました。

1区を任せられたのは昨年に続き金澤選手。先頭集団に食らいつき、昨年の16位を大きく上回る8位と好走。2区の小松選手は区間6位の快走で、5位に引き上げ流れをつくります。その後順位を落としますが、4区の武内選手が区間6位の走りをみせるなど、一人ひとりが力を発揮。2015年、2019年の過去最高14位を大きく塗り替える9位でフィニッシュし、本学過去最高タイムも1分30秒更新しました。

3区を走った植田選手は「過去最高順位でうれしい反面、シード権(8位以内)獲得まであと1歩だったので悔しい。攻める姿勢は忘れず、いつも通りの走りをするよう皆で話した。3.4年生中心のメンバーだったが、後輩たちに繋げられる走りができた」と話しました。

〈総合成績〉

1位 名城大学 2:02:59
2位 大東文化大学 2:05:35
3位 拓殖大 2:06:23
9位 東北福祉大学 2:08:46

〈本学選手の区間成績〉

※タイムの後は区間順位

1区(6.6km)金澤 佳子(社福3年) 22:03(8)
2区(3.9km)小松 莉菜(医経3年) 12:34(6)
3区(6.9km)植田 真央(社福4年) 23:29(13)
4区(4.8km)武内わかな(社福3年) 16:11(6)
5区(9.2km)田中 杏梨(社福4年) 31:20(16)
6区(6.7km)小高 夏綺(看護4年) 23:09(10)



過去最高9位でゴールする小高選手

硬式野球部・椋木投手オリックス1位、4選手がプロ入り

2021年10月11日に東京都内で行

われたプロ野球（NPB）ドラフト会議で、硬式野球部の椋木蓮投手がオリックス・バファローズから単独で1位指名を受けました。また、大竹風雅投手が福岡ソフトバンクホークスから5位、大里昂生内野手がオリックス育成3位、三浦瑞樹投手（学科・学年はいずれも情報福祉マネジメント学科4年）がソフトバンク育成4位と、プロ志望届を提出した4選手すべてが指名



プロ志望届を提出した4選手が全員指名。左から硬式野球部・寺下明部長、椋木投手、大竹投手、大里選手、三浦投手、大塚光二監督

を受けました。

椋木投手は最速154キロ右腕。1年時の第67回全日本大学野球選手権大会でも登板、3年秋の仙台六大学リーグ戦では最優秀選手賞を獲得しました。大竹投手は公式戦2試合の登板ながら、長身からの速球とフォークが武器の右腕で、今後の成長に期待がかかります。

大里内野手は2年時の明治神宮大会で2本の二塁打を放つなど、勝負強い打撃と強肩が持ち味。三浦投手も椋木投手同様、1年時から全国を経験し、今春リーグ戦では防御率0.00で最優秀投手賞を受賞しています。

椋木投手「正直1位とは思わなかった。1位は即戦力を期待される。任せられたところで頑張りたい」と意気込みを語りました。なお、現在三菱重工WestでプレーするOBの八木彬投手（2019年度卒）が千葉ロッテマリーンズから5位指名。今ドラフトを受け、本学からのNPB指名選手は通算56人（社会人野球経由者含む）となりました。

杉澤選手が侍ジャパン大学代表候補

硬式野球部・杉澤龍外野手（3年）

が2021年11月11日、全日本大学野球連盟が選出した侍ジャパン大学代表候補45人に名を連ねました。杉澤選手は東北高1年時に甲子園を経験、2019年に本学に入学すると、1年時から公式戦出場を果たしました。レギュラーを掴んだ今年の春秋のリーグ戦では2季連続でベストナインを獲得。俊足を生かした範囲の広い守備と、鋭いスイングからの強打が持ち味の左打者で、初の大学代表候補入りとなりました。12月には愛媛・松山市での強化合宿に参加。2022年7月に開催が予定されている第30回ハーレムベースボールウィークへの出場を目指します。

軟式野球部・影山投手、竹縄外野手が日本代表

大学軟式野球日本代表の交流事業が2021年12月15日に宮崎県都市で5日間開催され、軟式野球部から竹縄俊希外野手（情マネ2年）と影山未來也投手（情マネ1年）が出場しました。

初日から3日間合同練習を行い、4日目、5日目に梅田学園軟式野球部、KKS Gと交流試合が行われました。

竹縄外野手は中堅手として2試合スタメン、影山投手はKKS G戦に先発として出場、チームの勝利に貢献しました。



大学軟式野球日本代表の交流事業に参加した左から竹縄選手、小野コーチ、影山投手

柔道部、外部団体と連携

柔道部は2021年12月11日、東北医療福祉事業協同組合（SGグループ・青森県）との共同企画で、スポーツ応援プロジェクト柔道教室を開催しました。SGグループから講師を招き、約40人の柔道部員が寝技・立技の技術指導を受けました。約2年間、コロナ禍において、柔道部員も活動制限を余儀なくされてきましたが、参加した部員たちは、充実した表情で講座を受講していました。

また、2022年3月には柔道場の改装も終了。新たな気持ちで、選手たちは新年度を迎えます。

ゴルフ部

2018年以来の男女4冠達成

2日間、上位4人の通算成績で競わ

れる男子第65回・女子第22回信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦が2021年10月28日、10月29日に千葉カントリークラブ梅郷コースで行われ、男子が通算553ストロークで3大会連続16度目、女子が通算576ストロークで2大会ぶり9度目の優勝を果たしました。これで今年度は、6月に行われた全国大学ゴルフ対抗戦と合わせ、男女全国4冠となりました。

また、26、27日に行われた第68回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権では、蟬川泰果(3年)が通算136ストロ



信夫杯を男女とも制し、年間4冠を達成したゴルフ部の選手、スタッフたち

クで初優勝を遂げました。

(信夫杯男子)

1位 東北福祉大学 553ストロ

ク(275、278)

2位 日本大学 554ストロ

ク(277、277)

3位 大阪学院大学 566ストロ

ク(277、289)

(信夫杯女子)

1位 東北福祉大学 576ストロ

ク(281、295)

2位 日本大学 590ストロ

ク(290、300)

3位 中部学院大学 592ストロ

ク(292、300)

佐藤選手が初優勝 文部科学大臣杯

文部科学大臣杯争奪第4回日本女子学生ゴルフ王座決定戦が2021年11月30日〜12月3日にかけて広島カントリー倶楽部で行われ、佐藤美優選手(社福2年)が初優勝を果たしました。2日間の予選を通過した16人によるシールドスマッチプレーで争われた決勝ラウンド。3勝し勝ち上がった佐藤選手

は、決勝で幸田彩里選手(早稲田大学2年)を1UPで下し、学生女王の座に輝きました。

なお、この決勝ラウンドには本学ゴルフ部から佐藤選手合わせ4選手が進出。同じく2年生の園田結莉亜選手(社福)がベスト8に入り、佐藤選手とともに来年のこの大会の出場権を得ました。

12月8日に千葉公慈学長と高橋英寛理事長に優勝報告を行った佐藤選手は「メンタル面を勉強し、考え方を変えたことがいい結果につながった。来年はレギュラーツアーのベストアマなどさらに上を目指し、冬のトレーニングを頑張っていきたい」と抱負を語りました。



優勝カップを手に笑顔の佐藤選手

曹洞宗務庁から 助成金

ゴルフ部は2022年2月15日、2021年度の功績により曹洞宗務庁からの「課外活動特別助成金」を受けました。曹洞宗務庁からの「課外活動特別助成金」は、曹洞宗立である本学の、今年度における、卒業生を含むゴルフ部の功績に対するもの。15日の授与式には、千葉公慈学長とゴルフ部・阿部靖彦監督が出席し、鬼生田俊英宗務総長から助成金100万円を拝受しました。



左から鬼生田宗務総長、千葉学長、阿部監督

卒業生の松山英樹さん日本人初のマスターズ制覇

本学卒業生でプロゴルファーの松山英樹さん（2013年度社福卒）が現地時間2021年4月11日（日本時間4月12日）、男子プロゴルフの4大メジャーの1つ「マスターズ」（米ジョージア州・オーガスタナショナルGC）で日本人初の優勝を果たしました。

4打差の首位で出た最終日、4バーディー、5ボギーの73で回り、通算10アンダー。日本男子初の海外メジャー優勝、アジア人初のマスターズ制覇の快挙となりました。

この優勝を受け、4月30日に松山さんは都内の首相官邸で内閣総理大臣顕彰を授章。「2011年のマスターズ出



菅義偉総理大臣（当時）から内閣総理大臣顕彰を授かった松山選手（左）=文部科学省提供

場に際して、東北の皆さん、そして全国の皆さんからたくさんのお押しを頂き出場してから10年、その時の感謝は今でも忘れていません。新型コロナウイルスの影響で、世界的に今までと違う生活になっていますが、少しでも皆さんの明るい話題として受け止めて頂き、今後一人でも多くの子供たちがゴルフに興味を持ってくれたら嬉しく思います」とコメントしました。

また、松山選手は8月の東京オリピック2020こそ4位に終わりましたが、10月に「ZOZOチャンピオンシップ」、2022年1月には「ソニーオープン」で優勝、アジア勢最多に並ぶPGAツアー通算8勝目を挙げました。

OB 藤本さんが車いすバスケット男子銀メダル

2021年9月5日に閉幕した東京2020パラリンピックで、車いすバスケットボール男子に卒業生の藤本央さん（2005年度社福卒、宮城MAX）が出場、最終日に米国と決勝を戦い60-64で惜敗しましたが、同種目初のメダル獲得に貢献しました。2004年アテネ大会から5大会連続

の出場の藤本さんは、チームのエース、精神的支柱として快進撃を支えました。

9月15日、千葉公慈学長への表敬訪問のため来学。本学1年時の2002年5月から車いすバスケットボールを始めた藤本さんは、「大学に入學して、障がい者スポーツを知って、いろいろな人のアドバイスで車いすバスケットをするようになった。人生を大きく変えた学校」と感謝の言葉を述べました。10月からドイツの「RSVラインディル」へレンタル移籍。「自分の可能性に挑戦する」と意気込んでいました。



千葉学長（左）、高橋英寛理事（右）を表敬訪問した藤本選手

サッカー部に強力バックアップ

2021年度からサッカー部に、聖和学園高で長年監督、総監督を務め、全国大会で4回優勝に導いた国井精一氏がコーチに就任しました。高校女子サッカー指導者の第一人者的存在である国井コーチは、本学ではサッカー部男女に対し情熱あふれる指導を展開し

ています。

また、石巻市を本社とし、自動車販売等を阿部勝自動車工業株式会社がチームの「スポンサー」に。サッカー部の男女部員に対し、同社のロゴ入り練習着を贈呈していただきました。ちなみに、大学サッカー界では、スポンサー名入りのユニホームでも公式戦出場が認められています。

2019年に女子部が立ち上がったサッカー部ですが、徐々にバックアップ体制が整い始めてきました。



「アベカツ」のロゴが入った練習着をまとった女子部員たち



練習で男子部員に指示を与える国井コーチ（左）

橋本美月選手が日本人2人目の優勝 アジアパシフィック女子アマチュア選手権



日本人2人目の快挙を遂げ、優勝杯を掲げる橋本選手

2021年11月10日から13日にかけてアラブ首長国連邦・アブダビGCで行われたアジアパシフィック女子アマチュア選手権で、橋本美月選手（社福1年）が4日間トータル272の通算16アンダーで初優勝を果たしました。同じく本学から出場した木内真衣選手（社福3年）は289の通算1オーバーで37位となりました。

日本人の優勝は2019年の安田祐香選手以来2人目の快挙。本学では男子を含めれば松山英樹選手（2013年度卒）、金谷拓実選手（2020年度卒）に続いて、アジアナショナルの称号を手に入れました。

12月1日には千葉公慈学長と高橋英寛理事長に優勝報告。今回の優勝で、2022年の海外メジャー「全英女子オープン」と「アムンディエビアン選手権」、「オーガスタシヨナル女子アマチュア選手権」の出場資格を得た橋本選手は、「出場する選手もコースもすべてが初めましてなので凄く楽しみです。今できる準備をしつかりとしていきたいです」と世界での活躍に向け、気持ちを新たにしています。



力強いショットを武器に、世界を制した

東北福祉大学通信 No.96

令和4年3月30日発行

発行所 東北福祉大学

発行者 千葉公慈

〒981-8522 仙台市青葉区国見1丁目8-1

TEL 022-233-3111 <https://www.tfu.ac.jp>

